

○東京都教育委員会目標 スクール・ミッション

○本校の教育目標と目指す学校
『誠実』『慈愛』『自立』

○本校のグランドデザイン

Anniversary 77
since 1948

八丈高校魅力化プロジェクト

～ ONLY ONE すべては生徒のために～
「教育内容の充実と進路実績の向上」

「地域と協働した探究学習：八丈学」「Hawaii 研修」「企業連携、都立大・産技大等との高大連携」
東京大学教養学部インターネット配信講座協定校 都立大学・産業技術大学院大学連携協定校
海外学校間交流推進校 Hawaii Waiakea 高校姉妹校 通州区運河中学校姉妹校 学力向上研究校
TOKYO教育DX推進校 特別支援学校と高等学校等の協働的な取組事業
職員室環境改善事業 エンジョイスポーツプロジェクト実施校 東京GAP登録校

○八丈町と緊密な連携 ・八丈町の特産品づくりの後継者を育成する園芸科・家政科の人材育成 ・町施策との協働による移住者増に係る生徒増
・島内生の郷土愛の醸成・島外生の八丈島への理解伸長と帰属意識の向上 ・八丈島の人口問題解決へ貢献(生徒増、Uターン・Iターン、活性化)

観点	中期的目標と方策	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標と方策
学習指導	<p>【目標】「東京の目指す教育」の実現に向けた3つの学びを踏まえた、教育課程の充実と魅力ある教育活動、進路希望のより高いレベルでの実現を目指した授業の充実化</p> <p>【方策】</p> <p>○子供一人ひとりの意欲を引き出す学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省地域協働事業推進校の経験を活かし高大連携や地域と協働した探究学習を推進して地域課題解決に挑戦する創造的な「八丈島を支える人材」を育成する。地域協働学習実施支援員を教務部の所属として連携を推進する。 <p>○社会全体の力を生かした学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 島内外の小・中学校との教科間及び学校間連携で町教委主催教育研究会の各部会に参加するなどして情報の共有化及び指導と評価の内容や方法の改善を図り、所属教員の資質向上とともに、各教科の小中高の系統的・教科横断的な学習を推進する。 教員の指導力・授業力向上のため島嶼地区高等学校への授業配信を行い、島嶼地区の高校の学力の底上げを図る。 <p>○ICTの活用による学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来のデジタル教科書や、校務・採点支援システム化によるIT化と業務処理の効率化、AIやICTの活用を推進する。 <p>○教員の資質・能力の更なる向上のため、個人の研鑽をはじめ、オンラインでの指導教諭の模範授業、教員研修など、意図的、計画的、組織的な研修を推進する。</p> <p>○「視野の広い国際社会で活躍する人材」を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル化、ボーダーレス化への対応として、国際交流を更に推進しTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) 等を活用した4技能5領域など使える英語力を育成する。 国際交流リーディング校、海外修学旅行の実施を目指すとともに、英検上位級の取得を推進する。 「Hawaii 研修」「次世代リーダー育成道場」「専門高校生海外派遣研修」への参加を推進する。 海外学校間交流推進校として、国際交流を推進する。 都立高校生が世界や日本の将来を担う人材となることを目指す。 <p>○全・定・分の協働事業を活性化し、インクルーシブ教育の一層の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接・近接する都立特別支援学校と都立高等学校の各5校で、障害のある生徒等と障害のない生徒が日常的に共に学ぶ環境の整備に向け、従前どおり特別支援学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を基準とする教育課程を編成しながら、生徒等の個々の発達段階に応じた都立特別支援学校と都立高等学校との協働的な取組を実施する「特別支援学校と高等学校等の協働的な取組事業(教育庁都立学校教育部特別支援教育課特別支援教育企画)」。 <p>これにより、障害のある生徒等と障害のない生徒や教員同士の相互理解を図り、障害のある生徒等と障害のない生徒が共に学ぶ「協働活動」について、組織的・体系的な推進を図る。あわせて、都立八丈高等学校と都立青鳥特別支援学校八丈分教室における協働活動の一層の推進を図る。</p>	<p>【目標】カリキュラムマネジメントによる魅力化の創造(「東京都立青鳥特別支援学校八丈分教室と連携」「グローバル化」「IT化」)</p> <p>【方策】「東京都教育施策大綱(令和7年3月)」</p> <p>○学習指導要領のもと、学力の3要素に基づいた指導とルーブリック等の評価、系統的な学習や教科横断的な学習、探究学習を研究・開発し、研究紀要や学習の手引き「学びの羅針盤」を活用・改訂し、生徒に配布、保護者の活用を推進する。</p> <p>○校内外及び小・中学校の授業参観、授業研究を全教員が行い、異校種相互の系統的な授業力の向上を図る。</p> <p>○反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを定着させるとともに、学習環境整備、オンライン学習など、生徒の主体的な学習を支援し学び方と学習習慣を定着させる。</p> <p>○総合的な探究の時間(八丈学、課題研究)など、地域の特色を生かした系統的な学習や教科横断的な学習を行い、郷土の歴史と伝統文化、産業の理解を深め、探究学習、進路学習、キャリア教育を更に推進する。</p> <p>○習熟度別授業の充実の他、IT化、AIやICTを活用しデータを可視化して定期考査や模試等による学力の定観測や分析会等で指導の最適化を図る。</p> <p>○図書館機能の充実化と、IT化、ICTを活用するなどして、情報教育やキャリア教育・進路学習を推進する。</p> <p>○図書館の土日開放事業を拡充し、夜間八高塾の継続及び学習環境の一層の充実を図る。</p> <p>○読書活動を推進して国語力や表現力を養わせ読書意欲の向上と未読率の解消を図るとともに、書評合戦等に積極的に参加する。図書館利用を推進する。</p> <p>○全国大会、世界大会レベルのコンテスト、コンクールへの応募を促進し、学力や生徒の達成感・帰属意識の醸成を意識して取り組む。</p> <p>○Hawaiiの高校・大学と、高度な学び合い、相互交流を推進する(姉妹校)。</p> <p>○中華人民共和国(北京市通州区運河中学校(日本の中等学校))と高度な学び合い、相互交流を推進する(令和7年度姉妹校締結)。</p> <p>○トルコ・アナドル高校と、高度な学び合い、相互交流を推進する(海外学校間交流推進校事業)。</p> <p>○エジプト(12月12日～12月19日)へ都立学校を代表して訪問する。日本に関係のある学校・大学や企業見学、現地学生との交流や企業職員の講話等(「都立高校生等の海外派遣研修」)。</p> <p>○海外で通用する生徒の英語力・課題解決力・リーダーシップ力、世界を意識したチャレンジ精神等を育成する(都立高校生「Global Challenge」(3週間留学))。</p> <p>○学校行事の全・定・青鳥分教室の共同開催を実現する。体育祭において定時制課程の生徒全員の参加を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特別支援学校と高等学校等の協働的な取組事業(教育庁都立学校教育部特別支援教育課特別支援教育企画)」①相互理解を一層深め、新たな可能性を模索することを意図して、全日制課程・青鳥特別支援学校八丈分教室、そして、定時制課程の職員室をひとつにする。②学校行事については、体育祭、卒業式を合同開催するとともに、③令和9年度修学旅行を合同実施できるように計画・立案する。④授業については、普通教科9、専門教科2の合計11教科で、合同授業の具現化について教教会等で前向きに検討する。⑤そして、準備できた教科は、広く公開するとともに記録に収め、⑥成果と課題について、PTで協議し、改善を図る。 	<p>【目標】わかる授業から「自ら学びたい授業」へ(「デジタルな学びとリアルな学びの融合」、「対話的な授業」、「生徒同士の学び合いの時間」「振り返りの時間」)</p> <p>【方策と数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇授業満足度(肯定的評価)90%以上(前年度86%) ◇自己の授業を録画 年2回以上実施 ◇島内の小・中学校の授業見学及び町教委主催教育研究会の各部会に参加する。主幹教諭1名、主任教諭(主任養護教諭含む)8名、教諭17名 ○町教育委員会が主催する校長連絡会(毎月開催)副校長連絡会(毎月開催)に出席する。 ○教務部の進行管理のもと、教科主任会議で進路指導部や学年と連携した学力分析による学力向上の取組とカリキュラムマネジメントを推進する。 ○教務部と各教科会により定期考査、模試、生徒による授業評価結果等を各教科で分析し授業改善を図り、統一的な評価基準を策定する。 ○デジタル技術を活用した意図的、計画的な教員研修、年2回以上自己の授業を録画し授業研究する。 ○進路希望や習熟の程度の違いに対応するため、各校務分掌と各教科の横断的な連携を密にして各生徒の学習状況と選択科目希望などを共有し、模試や講習、八高塾(校内寺子屋)でのAI教材の活用など確実な学力向上を図る。 ◇図書貸出冊数 ◇図書館利用者数 ◇図書館授業利用回数 ◇図書館開放事業利用者数 ○コンクール参加やTGG活用で国際理解と英語力向上を図る。 ◇日本漢字能力検定、実用英語技能検定 ○DX時代をリードする力を身に付けられるよう、身近な課題等を解決することを学ぶプログラミングイベントへの参加を推進する。モバイルアプリの制作を行うワークショップ、アイデアとプログラミング技術を競うハッカソンやコンテスト等の実施を通して、ITリテラシー向上を図る。 ○日本型教育や日本文化、東京の暮らしなど、日本や東京の魅力を東京の生徒がより理解した上で、八高への留学生の受け入れを実施し、より多くの生徒が、直接交流できる機会を創出する。 ◇オンラインを含め海外交流活動5回以上 ・トルコ・アナドル高校来校(9月14日～18日または9月28日～30日) ・トルコ・アナドル高校訪問 教職員2名 ・エジプト派遣 代表生徒4名 教職員1名 ・ニュージーランド1名(留学通信の学校HP掲載) ・都立高校生「Global Challenge」(3週間留学)学校の推薦を受けた各校1名の生徒を参加生徒として、192名の生徒を募集・決定する1名。 ○令和9年度修学旅行プロジェクトチーム(全・定・青)を編成して2月中までに候補地を選定する。 ○卒業式については、2校3課程の副校長が中心となって、合同入学式を検証し、6月末までに卒業式を立案、8月末までに実施要項、司会進行台本等を立案、9月から具現化に向けた詳細の検討と準備を進める。 ○授業については、普通教科9、専門教科2の合計11教科で、合同授業の具現化について教教会等で前向きに検討する。⑤そして、準備できた教科は、広く公開するとともに記録に収め、⑥成果と課題について、PTで協議し、改善を図る。 ◇教科別連携授業(普通教科9、専門教科2)
園芸科・家政科の充実	<p>【目標】園芸科、家政科の魅力化と情報発信</p> <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学や企業と連携し、「将来の高度な園芸・家政の専門人材」や「起業家・創業家を育成」する。 ○消費者教育・主権者教育を充実させ市民性を育む。 ○J-GAP認証のもとSDGsを推進し地域貢献する。 ○島の生産品(八丈レモン、パッションフルーツ、しいたけ、ねぎ、ロベ等)を持続・発展するための授業、レ 	<p>【目標】園芸科、家政科の魅力の充実化と情報発信</p> <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○八高祭や体験授業等で、お弁当レシピ開発、食品製造、野菜、草花の販売等を行い、魅力の発信をする。 ○農業クラブや学校家庭クラブを推進、活性化し、活動成果や魅力を島内・島外に積極的に発信する。 	<p>【目標】園芸科、家政科の魅力の積極的な情報発信</p> <p>【方策と数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇応募者倍率 10%向上 ◇事故ゼロ ○町と連携し、継続して島のお弁当レシピ開発を行う。 ○町と連携し、特産品の生産を授業に取り入れることを研究する。 ○お弁当販売、生産品販売、苗販売を行う。

* 本校の学校経営や、生徒に役立つ方策等については、年度途中でも推進する。

令和8(2026)年度 東京都立八丈高等学校 全日課程 学校経営計画

	<p>シビ開発を含めた商品開発についての授業を織り込み八丈島を背負って立つ人材を育成する。</p>	<p>○島内の学習ニーズを見極め、体験授業、上級学校説明等で島内外の小・中学生や保護者の理解を深め専門学科の魅力を力強く発信する。</p>	<p>◇お弁当や生産品の販売回数 ◇資格試験・検定(日本農業技術検定、食物調理技術検定、被服製作技術検定等)等の獲得を推進する。</p>
<p>生活指導・健康づくり</p>	<p>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進 【方策】 ○地域と連携した学校危機管理計画等の充実化を図る。 ○生徒の保健衛生、安全管理等の取組と事故防止を行い心身の健康の増進と体力の向上を図り健全育成する ○SNSなど情報モラルの徹底と、生徒が社会的に自立するための資質・能力を育成する。 ○生徒の自立に向けて、主体性や自己肯定感を更に高め、社会人として必要な非認知能力の向上を図る。 ○いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育等、健全育成に係る取り組みを推進する。 ・自殺対策基本法の改正を踏まえた、SOSの出し方に関する教育の実施や相談先の周知等に関して取り組む。 ・生徒一人ひとりが、自らの個性の発見とよさや可能性の伸長を図りながら、自己実現を果たすことができるように、生徒理解を深め、積極的な先手型の生活指導の充実を図る。そのため特に、自己肯定感を高めることや、生徒が自己決定する場を広げることを重視し、子供も自らの成長を支える働き掛けを推進する。 ○エンジョイスポーツプロジェクト事業(2年目)のさらなる充実を図る。 ○生涯を通じて、たくましく生きるために必要な体力を育む教育を推進する。 ○主体的に社会の形成に参画する態度を育む。 ・積極性や協調性、コミュニケーション力、他者理解、感性等の豊かな心の育成につながるよう「笑顔と学び体験活動プロジェクト」を活用するなどして、体験活動の充実を図る。</p>	<p>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進 【方策】 ○健全育成と国際理解、心身の健康・体力向上を図る。 ○平和学習、人権尊重、自他の生命尊重など、講話や教職員全員による統一指導により更に育成する。 ○学年及び全分掌代表、そして、SCと管理職で構成する特別支援コーディネーター連絡会を定期的に開催し、生徒情報等、具体的手立てを共有する。 ○「いじめ総合対策(東京都教育委員会)」に示された、いじめの未然防止、早期発見、早期対策、生徒の主体的な行動を促す取り組みを、家庭や地域・関係機関等と連携して実施する。 ・生徒が自らの命を絶つことがないようにするため、学校は、家庭と協力して、生徒の不安や悩みを適切に把握し、心理や医療等の関係機関と連携して、その解消に向けた支援を行う。生徒に「心の危機に気付く力」「相談する力」を育む教材の活用を推進するとともに、デジタルを効果的に活用したメンタルヘルズシステムを運用する。 ○全教育活動を通じてオリンピック・パラリンピック教育を推進し国際交流など八高のレガシーを構築する。 ○子供たちが運動やスポーツとの多様な関わり方を通して、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができるようになることを目指し、スポーツとの多様な関わり方(する・みる・支える・知る)を通じた取組を推進するとともに、専門家等と連携した指導やデジタル技術を活用したエビデンスベースの指導の充実を図る。また、他者への思いやりなど、豊かな心を一人ひとりの子供たちに育む教育を推進する。</p>	<p>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進 【方策と数値目標】 ○防災教育は生徒が主体となって企画・実施等して、八丈町と連携した安全教育・防災教育の充実を図る。 ○生活指導部主導により、養護教諭や特別支援教育コーディネーターがスクールカウンセラーと連携して特別支援教育・教育相談活動の充実化と、ソーシャルスキルや非認知能力の向上など、自立に向けた教育を推進する。 ○学校、家庭、地域、警察、児童相談所、子ども家庭支援センター等の関係機関が専門性を生かしながら役割分担をし、生徒に対して適切に指導や支援を行うことができるように、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー等の専門人材の機能向上を図る。 ・学校サポートチームの活用を推進する。 ・「さわらない・送らない・二人きりにならない」に「生徒と教職員との交際関係は成立しない」というメッセージを加えた「3ない運動プラス」を展開する。 ・{SNS東京ルール}に基づき、生徒による話し合いを通して「SNS八高ルール」づくりに参画したり、見直したりするなど、情報モラル教育に取り組む。 ○「TOKYO ACTIVE PLAN for students」(令和4年3月策定)(総合的な子供の基礎体力向上方策(第4次推進計画))を参考にした生徒の体力向上及び健康の維持推進に関する取り組みとして、エンジョイスポーツプロジェクト実施を全校において実施する。 ○運動機会を設定し生徒の多様なニーズにこたえと共に健康に対する意識を高め、心身の健康を保持増進する。生活習慣(食事、睡眠等)の改善や心の健康について講演や実技指導を行っていく。</p>
<p>進路指導</p>	<p>【目標】進路実績の向上 【方策】 ○生徒の進路希望の高いレベルでの実現のため、3年間の系統的なキャリア教育の全体計画に基づいた進路学習と在り方や生き方の涵養を学校全体で行い「社会的・職業的に自立した人材」を育成する。 ○一般入試での進学対策など、学力の向上と進路指導の改善・充実化を図る。 ○理数やプログラミング等に興味・関心があり、理工学系分野への進学を志す生徒を対象として、研究者による最先端の講義や指導を受け、持続的な研究・学習活動を行う機会を設けることで、生徒の大学進学を目的を明確にするとともに、大学生活や大学卒業後を意識し、自己の将来について考える契機とすることを目的として、東京都立大学や、電気通信大学、東京農工大学等との連携を推進する。</p>	<p>【目標】進路実績の向上 【方策】 ○進路指導部主導で各学年と連携し組織的な進路指導体制のもと、生徒の進路希望を高いレベルで実現する。 ○進路指導部が中心となり各教科と連携して土曜講習や長期休業期間中の講習、自習体制を確立して組織的、計画的に学力向上を図り進路希望の実現につなげる。 ○都の予備校講師によるオンライン学習を要請する。 ○IT化、AIやeポートフォリオシステムを活用し外部模試の定点観測と分析を行うとともに、組織的な講習等により学力向上を図り、進路希望を実現させる。 ○就労系YSWの活用と、入学後の早い時期からの意図的、計画的な進路学習を推進して生徒の進路実現を徹底する。</p>	<p>【目標】進路実績の向上 【方策と数値目標】 ◇進路決定率100%(前年度93%) ○進路選択に向けた面接指導や講演会、保護者会や保護者との面談等を各学期に実施し、情報共有化する。 ○オンラインチューターの活用・充実化を推進する「令和8年度島しょ地域の都立高等学校における大学進学支援に向けたオンラインチューター制度(教育庁企画部デジタル推進課 島しょ教育DX)」。 ○東京大学のオンライン講座の推進を図る。 ◇長期休業期間の講習数・参加者数 ◇長期休業期間の自習者数</p>
<p>特別活動等</p>	<p>【目標】特別活動等の充実化 【方策】 ○「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」に基づき、これまで「学校単位」で教員が担うことを前提として行われてきた部活動の教育的意義や役割を地域に継承しながら、生徒が地域でスポーツに親しめる持続可能な環境を構築する。 ○生徒会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り愛校心や帰属意識、郷土理解、リーダー性を高める。 ○生徒会役員先進校視察・リーダー研修による国内外の他校交流で、主体性やリーダー性を更に伸ばし、生徒や保護者へ報告するなどして還元する。</p>	<p>【目標】学校行事や生徒会活動によるリーダー養成 【方策】 ○外部指導員を活用した部活動の年間活動計画を策定し、安全性を確保して活性化を図る。 ○地域の社会人や、中学校と連携を図り、競技や発表の実践を通して知識・技能の伸長を図る。 ○学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営して達成感や成就感等を経験させる。 ○生徒会による地域連携ボランティア活動を推進する</p>	<p>【目標】リーダーの養成、部活動加入率の向上 【方策と数値目標】 ◇遅刻年間15回以上の生徒減(前年度2.5%) ◇部活動加入率85%(前年度82%) ◇外部指導員・地域移行を推進する。 全12部のうち5部(野球部、バレーボール部、バスケットボール部、茶道部、テニス部) ◇地域や中学校との連携回数 ◇生徒会による地域連携ボランティア延べ参加人数 ○生徒・保護者・教職員の三者で協議をして、校則や自動販売機設置及びキッチンカーの導入を検討する。</p>
<p>家庭・地域との連携協力・交流活動、学校広報活動</p>	<p>【目標】都や町と連携した戦略的な情報発信 【方策】 ○学校広報活動を経営の第一課題と位置付け推進する。 ○都や町等と連携し本校の更なる魅力化に努め情報発信し、八丈島への移住・定住の促進、国内外を問わず八丈島訪問生徒のホームステイ受け入れ先の確保、寮建設、そのほかの方法などを検討、推進して応募者倍率を向上させるとともに、地域貢献、国際交流・相互交流を推進する。 ○「学校と家庭・地域とのより良好な関係づくりに係るガイドライン」(令和8年2月 教育庁人事部)に基づき、子どものためのパートナーシップを築く。</p>	<p>【目標】家庭、地域との密な連携と、戦略的な情報発信 【方策】 ○マスメディアに本校の魅力ある取組の情報を提供し、地域と連帯した広報活動を推進する。 ○島留学生フォーラム、ホームステイ連絡会、学校運営連絡協議会等において、島内外からの学校理解、学校評価をいただき、本校の教育への支援を定着させる。 ○学校施設を積極的に開放し、台風被災後の町及び東京都の資産の活用を促進し、小中高の連携強化と相互交流を進展させる。 ○「学校と家庭・地域とのより良好な関係づくりに係るガイドライン」について、保護者会等で資料を配布して理解促進を図り、子どものためのパートナーシップを築く。</p>	<p>【目標】IT等を活用した戦略的な情報発信 【方策と数値目標】 ○ホームページやX(旧Twitter)、学校案内等を積極的に活用した適時的な情報発信で、学校広報活動と中学生、保護者、地域等学校外への情報提供を推進する。 ◇HP・X(旧Twitter)更新年200回以上 ○授業公開等の保護者及び地域住民や教職員の参加者数増を目指し開催の周知方法や内容の改善など、魅力の発信と相互研鑽の機会として活用を促進する。 ◇授業公開来校160名以上(前年度143名)</p>
<p>学校経営・組織体制</p>	<p>【目標】学校経営の適正化 【方策】 ○TOKYOスマート・スクール・プロジェクトの推進 教員の経験値とテクノロジーをベストミックスし、子どもたちのもつ力を最大限伸ばすことができる環境を構築するため、端末や通信環境などを整備し子どもの学ぶ意欲を高める「学び方改革」、エビデンスベースの教育を実現し子どもの力を伸ばす「教え方改革」、システムの導入やデータ連携等により教員の負担軽減を図る「働き</p>	<p>【目標】学校経営参画の推進と組織の活性化 【方策】 ・「学び方改革」 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、高校一人1台端末の整備を着実に推進し、併せて教員と生徒の双方向のオンライン学習等を可能とする高速通信環境の運用・改善を図るとともに、生徒が安全に生成AIを活用できるよう、先端技術の活用を積極的に進める。</p>	<p>【目標】ライフ・ワーク・バランス推進による組織活性化 【方策と数値目標】 ◇超勤時間月80時間以上ゼロ・45時間以上減少 ◇いじめや生徒事故・体罰等の服務事故ゼロ ○TOKYO教育DX指定校としてAI教材の積極的な活用など、IT化・デジタル化を推進して、生徒の学力向上と業務の効率化を図る。</p>

* 本校の学校経営や、生徒に役立つ方策等については、年度途中でも推進する。

令和8(2026)年度 東京都立八丈高等学校 全日制課程 学校経営計画

<p>方改革」の3つの改革を同時に推進する（「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム（令和6年3月）」）。</p> <p>○ライフ・ワーク・バランス重視の勤務環境を構築する。 ○東京都、八丈町、都立青島特別支援学校や分教室及び島内小中学校との連携を緊密に図り、業務の精選と効率化を図る。 ○教員が心身ともに、やりがいを感じながら、職務に取り組める環境を整備する。 ・「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」を着実に実行する。 ① 学校・教員が担うべき業務の精査 ② 役割分担の見直しと外部人材の活用 ③ 負担軽減・業務の効率化 ④ 働く環境の改善 ⑤ 意識改革・風土改革 ・職員室環境改善事業（東京都教育庁人事部勤労課学校働き方改革推進）を進める。</p> <p>○町と連携した研修の充実を図る。</p> <p>○定時制課程と東京都立青島特別支援学校八丈分教室と一体となった校内研修の充実を図る。</p> <p>○創立80周年（令和11年）を迎えるための準備をすすめる。</p>	<p>・「教え方改革」 データ活用・分析等による授業の改善に向け、各種データを可視化、分析する教育ダッシュボードを順次導入し、学習ログ等を活用したエビデンスベースの指導を展開するとともに、デジタルサポーターによる授業支援の拡充やシステムへの入力作業を行う人員の配置により、学校のDXを強化する。 ・「働き方改革」 教員と生徒が向き合う時間を一層確保するため、成績や出欠、保健情報等の校務系データなどを一元管理・蓄積する統合型校務支援システムの運用・改善及び定期考査採点・分析システムとのデータ連携を進めるとともに、保護者コミュニケーションシステム等の新たなシステムの導入・拡充を進める。 ○教職の魅力・やりがいを発信し、誰もが八高に勤務したくなるような学校づくりをする。 ○本校組織全体の更なる活性化を図り、経営企画室の経営企画機能高め学校経営参画を推進し教育系と行政系の職員が密に連携した学校運営や施設管理を行う。 ○生徒・保護者の学校経営への満足度を高める対応や事務処理の効率化と円滑化を図る。 ○教員が心身ともに、やりがいを感じながら、職務に取り組める環境整備する。 ・都立学校教職員のメンタルヘルスに対する意識を高め、「早期自覚」「早期対処」につなげる心理的な負担の程度を把握するため、ストレスチェックを実施し、ストレス状況について気付きを促します。検査結果は学校ごとに集計・分析の上、管理職にフィードバックし、職場環境改善につなげる。 ・教職員が安心して働ける職場環境を整備するため、臨床心理士等が訪問し、教職員と面談を行うアウトリーチ型相談事業を実施する。面談を通じて、メンタルヘルスケアが必要な教職員を早期に発見し、必要に応じて病院等の専門窓口を案内するとともに、相談内容や傾向を分析し、職場の改善等について、助言していただく。 ○町と連携した危機管理体制を常のアップデートし、マニュアル化し点検を行い、校内研修を意図的、計画的に実施するとともに、服務事故防止徹底するための校内職員研修の充実を図る。 また、交通事故、ハラスメント、体罰、不適切な指導、暴言等の一掃に向けて、背景・要因を踏まえた対応例を活用した研修を実践するとともに、体罰や性暴力を含めた相談シートを全生徒に配布し、総合的な実態把握に取り組む。また、部活動の指導者にコンプライアンスと倫理規範に基づく言動を徹底し、科学的なトレーニングを導入することなどにより、体罰や不適切な行為のない部活動を推進する。</p>	<p>○教員一人1台タブレット端末、そして、10月から教職員一人1台スマートフォンを活用して校務の効率化を図る。</p> <p>◇男性の育休取得 1名以上 ◇年休15日以上取得 100% ◇時差勤務の推進に向けた業務の見直しを図る。 ○企画調整会議や教科主任会議を充実させた学校経営を行い組織的な学校運営、学校経営を行う。 ○学校行事やPT等の事前の校長レクや起案決裁を徹底するとともに、各教員の職層に応じたOJTを基本とするによる校務運営と業務遂行を図る。 ◇学校運営連絡協議会及び学校評価委員会を年3回開催し、学校評価アンケートを実施する。 OPT等を設置して、職員室環境改善事業を進める。 ◇部活動指導員の配置や地域連携・移行を推進する。 ◇産業医による長時間労働者への面接指導を実施する。 ○新規採用教員の職場定着を図るため、年齢が近い先輩を通じて、精神的に支援する。先輩教員等には、メンターとしての役割やコミュニケーションのコツ等を学べる研修を実施することで、新規採用教員の支援を充実させるとともに、学校全体の人材育成力の向上を図る。また、将来的に新規採用職員がメンターになることで、好循環を生み、中長期的に教員の働きやすさ向上につなげる。 ◇校長が官公庁連絡会（毎月開催）及び地区委員会（年6回）に出席し、情報共有と協議を進め、校内研修を実施する。 ○毎週水曜日に開催する職員研修連絡会とともに、毎朝の教職員打ち合わせ会に於いて、「サービスニュースレター」等の資料を活用して研修するとともに、生徒及び教職員を対象に調査を実施して実態を把握し、主幹教諭が主任教諭に、主任教諭が中堅・ベテランの教諭に、中堅・ベテランの教諭が若手教諭・実習助手等に積極的に声を掛けて、「目配り」「気配り」することで、服務事故の根絶を図る。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

* 本校の学校経営や、生徒に役立つ方策等については、年度途中でも推進する。